



未来を夢見て

2020/8/19 No. 30

汗を吹く 茶屋の松風 蝉時雨

お盆を過ぎても連日30°を超える猛暑が続いています。天気予報ではしばらくこの暑さは続くようです。

夏休みの空いた時間を使って、近くの歴史民俗資料館に涼を求めて出かけてみました。資料館は榴岡公園内にあります。その日は35°を超えるかと思われるくらいの酷暑でした。公園内ではこれでもかと言わんばかりの甲高いミンミンゼミの鳴き声、さらにはじりじりとしたアブラゼミの鳴き声が暑さに拍車を掛けて響き渡ります。

私は子供の頃から蝉の鳴き声を聞くのが好きで、一斉に鳴き出したり、鳴き止んだりするのをとても不思議に思っていました。また、木立の中で蝉を見付けるのも得意で、最初は目を閉じて鳴き声に耳を澄ませ、次に鳴き声のある幹をじっと見つめます。ほとんど木の幹と同色の蝉を見つけた時は、大人になった今でも、自分のその能力の高さに一人喜んでいきます。

真夏を象徴する蝉の鳴き声ですが、夕刻近くになって、ヒグラシの鳴き声が遠くに聞こえてきたりすると、何となく夏の終わりを感じて、柄にもなく感傷的になってしまうときもあります。

七夕祭りや甲子園もなく、いつもとは違う短い夏休みでしたが、みなさん英気を養うことはできたでしょうか。私もお盆は実家の石巻の墓参りに出かけた以外は、毎日この蝉時雨と共に過ごした夏休みでした。

8月18日から小野小学校でも勤務が再開しました。早速6年生の先生方と寺林先生、加藤先生が朝早くから修学旅行の下見に出発しました。初日は何人かの先生の姿を職員室で見かけた以外は静かな1日となりました。

さてこの夏、学区内に新たな交通標示が加わりました。1つは、もみじヶ丘交差点の歩行者用待機線（黄色）です。8月13日に佐藤会長さんが槻田さんや町の都市計画課の職員の立ち会いのもと作成してくださいました。また、もう1つは、8月17日から新たに延長されたグリーンベルト、いずれも交通事故から子供の命を守るための取り組みです。

もちろんこういった取り組みも大切ですが、最も大切なのは私たち（大人）と子供たちの意識の持ち方です。子供たちには、交通安全や交通ルールを自分のこと、命を守ることと考へ、2学期も継続して指導し、保護者や地域の皆様には、私たちが日々危機意識をもって子供たちの様子を見てことを、ミンミンゼミを見習って粘り強く声高に発信していきたい、と考へています。

さて、標題は正岡子規の俳句。まさに今の季節にぴったりなので紹介しました。また、写真一番下は藤沢周平の『蝉しぐれ』。毎年この時期になると、読みたくなる一冊です。実は今年、久しぶりに読んでみたのですが、10代や20代の頃に読んだ時とは違って、改めてこの小説の面白さにふれた気分になりました。私にとってはこの本がスティホームの夏休みの一番の思い出になりました。

明日から2学期。子供たちはどんな思い出を作って、学校に戻ってきてくれるのでしょうか。まずはできるだけたくさん子供たちの話に、声に耳を傾けましょう。

(文責：手代木)

